

創刊の辞

中野 恵海

このたび宿願の『相愛国文』が発刊の運びとなつて何とも慶びに堪えませんが、どの学問の分野もそうでありましょうが、国文学界に於てもその日進月歩ぶりには目をみはるものがあります。そして研究の領域は次第に、微に入り細を穿つありさまとなっています。

われわれはこの最新のコミュニケーションの洪水に参加して、まことにささやかなものではありますが存分に努力してみたいと思います。ここに新進気鋭の同志を糾合し、これに研究発表の場を提供せんとするものです。幸いに広く今後の皆様方のご支援ご指導を賜りますことを心から仰ぐ次第であります。

昭和六十二年十二月